

修文練武

「しゅうぶんれんぶ」

八幡高等学校

八幡高等学校の部旗「修文練武」について考えてみたいと思います。

この言葉を高校生流に考えますと「学業をきちっと修め、併せて武道もしっかり学び心身ともに強くなること」というような意味であり、「文武両道」という言葉と同義語として使われる言葉です。平成13年・14年の2年間、教頭として八幡高校で勤務していた私は時々剣道部の稽古ぶりを見に行きました。当時衛生看護科があり、厳しい看護の実習と平素の勉学、そして剣道を三立していた部員もいて、道場には、「修文練武」の言葉に励まされながら、文武の両立を目指す部員の意気込みがみなぎっていたのを思い出します。

さて、「文と武」が両立し、均衡することが尊いという考え方は、東洋思想には古くからあったようです。殷王朝最後に登場した暴君紂王を倒し周王朝を開いた、武勇の誉れ高い武王と、人徳があり多くの支持を得た武王の父文王の親子二代にわたる政治を、孔子は理想の政治家の姿と考えていたようで、「（乱れ始めている春秋時代にも）文武の道未だ地に墜ちず（文王と武王の行ってきた政治の道はまだ地に落ちていない）」と述べるくだりが「論語」に出てきます。（子張第十九22）

「経文緯武（ケイブンヱブ）」〈縦糸に文、横糸に武で織りなす政治の理想的な姿〉や「左文右武（サブンウブ）」〈左に学問、右に武術というように文武の奨励をする－江戸幕府『武家諸法度』〉という言葉も「文武両道」を意味する古い言葉ですが、文武を並立しているように見えながら、文の字を経（経は根本、始めを表す言葉）や左（左大臣は右大臣より上位というように左を右より上位に考える）という文字と重ねることによって、武よりほんの少し上位に置き、文によって武を制御しようとする古来の優れた武人の知恵が隠れているように感じられます。

若者に奮起を促す「修文練武」の言葉は、八幡高校の部員を励まし続けると思います。